

エルジェイ便り



LJ SOCCER PARK 2008



2008. 3発行 No.00036

エルジェイ・サッカーパーク

〒243-0022 厚木市酒井543

TEL : 046-220-0506

FAX : 046-220-0508

<http://www.l-sport.co.jp>

Lee's Words

3月9日(日)、株式会社アマダの素晴らしい施設で「第2回 LJ Atsugi Jr.ユース In&Out Ceremony～旅立ちそして出会い～」が行われ、新たな感動と感傷に慕った1日となりました。4月より入部する子ども達のあどけなさに、会場から微笑みが溢れ、自らが進路を決め凛々しくも逞しくなった2期生達の姿。後援会長より卒業の品を受け取った選手がマイクに向かって3年間を振り返ります。昨年即興で行った1期生達でしたが、今年は知恵がついたのか、メモを用意し話す選手も登場。やはりここはメモ無しでやって欲しかった。しかしながら、選手達が自らの思考で話す姿は会場に笑いと涙を誘います。思えば3年間、選手達に何を伝えてきたのか、と自問します。指導とは一体何でしょう、とこの機会を通して書いてみます。

私は少年期(小学生)から青年期への移行する中学生に対し、大人へ近づける第1歩がエルジェイでおこなう事だと考えます。グラウンドレベルでは、サッカーとは何か?から始め、グラウンド外(生活面)では、言葉使いに最も注意を払います。子どもだからと言って子ども言葉は一切使いません。指導者の言ってる事が理解出来る筈ありません。しかしながら、習慣とは恐ろしいもので夏が過ぎる頃には幾分理解してきます。年3回行う合宿は生活面を整理する上で良い機会と捉えており、食事では多く食べることをうながします。指導者自らお鉢からご飯をよそってあげます。入浴も重要視しており、次の人が気分良く使えるようにする。「時と場所」での的確な言動行動を行える事。グラウンド内でもグラウンド外でも。そして実施する上で最も重要視するのが、聞く力を付けさず事だと思っております。セレモニーで選手達がマイクに向かって話す言葉は、指導者の3年間の宝物だと考えますが、いかがでしょうか。今年も無事に終えたセレモニーですが、実施にお力添えを頂いた後援会の皆様、そして事務局長の安藤裕里様。司会のお願いを快く引き受けて頂いた武居和子様。この場をかり、心より感謝を申し上げます。

(李 国秀)



ほんとうの強さをもった君たちへ。
卒団おめでとう。

第2回 In&Out セレモニーに参加して 2期生保護者

たくさんの願いがこのセレモニーの中に詰まっていた。3年間の成長を喜びと驚きの中で感じる事ができました。昨年卒業した3年生の中で次のようなことを言った選手がいたことを思い出しました。

「もう僕はサッカーをやりません」。

驚きと共に素直に彼が話しをしている姿になぜか感動を覚えたものです。自分の気持ちをあのような場で原稿もなく話ができる彼に思わず拍手をしたことを昨日のように覚えています。

今年のセレモニーの中で素直な気持ちで表現してくれた選手が次のようなことを言っていました。

「李さんに言われて頭にきた。でも、それをなにくそという気持ちで頑張った」

「僕は、きっと高校のサッカー部に入るといじめられると思いますがよろしくお願ひします」

これを聞いて「4月から負けるな、頑張れ」と心の中で応援したくなりました。

自分の考えをつい押さえてしまう世の中で、考えをはっきり伝えることができるそんなエルジェイの選手であって欲しいなという気持ちを強く持ったセレモニーでありました。2004

自宅の玄関にはこの3年間たくさんのゴムチップと人工芝の切れ端から始まりましたが、今はもうありません。何かちょっと寂しい気持ちがするのも正直な気持ちです。